

[別紙④]

第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案

日 時 令和3年5月20日(木) 2校時  
場 所 5年2組 教室  
対 象 5年2組 38名(男子18名, 女子20名)  
指導者 太田 充洋

日 時 令和3年5月20日(木) 3校時  
場 所 5年1組 教室  
対 象 5年1組 38名(男子17名, 女子21名)  
指導者 太田 充洋

1 主 題

「ネット依存」について考えよう(情報モラル)

2 資 料 名

中日新聞記事・朝日新聞記事

3 ね ら い

長時間、情報メディアを利用し続けると健康上の問題や人間関係上の問題が生じることを理解し、健康で健全な成長を守るための行動を実践しようとする態度を育てる。

4 人権教育の内容

3-(1)-ア 「市民意識」の醸成 (自己決定、自立心、責任)

5 情報モラル教育の考え方

情報教育とは、児童の情報活用能力の育成をはかるものである。情報教育の目標については、①情報活用の実践力・②情報の科学的理解・③情報社会に参画する態度の3つの観点に整理されている。情報モラル教育は、③情報社会に参画する態度の中に位置づけられている。

社会の情報化が進む中で、その「影」の部分を十分に理解した上で、情報社会に積極的に参画する態度を育てることは、今後ますます重要になる。児童にもスマートフォンやパソコンなどを通じたインターネット利用が急速に普及し、インターネット上の誹謗中傷やいじめ、犯罪や違法・有害情報などの問題が発生しており、こうした問題を踏まえ、情報モラルについて指導することが必要である。

情報モラル教育は、①情報社会の倫理・②法の理解と遵守・③安全への知恵・④情報セキュリティ・⑤公共的なネットワーク社会の構築、の5つの領域に分類されている。また、学習指導要領解説総則編にも以下のように載っている。

情報モラルとは「情報社会で適正に活動するための基となる考え方や態度」であり、具体的には、他者への影響を考え、人権、知的財産権などの自他の権利を尊重し、情報社会での行動に責任をもつことや、危険回避などの情報を正しく安全に利用できること、コンピュータなどの情報機器の使用による健康との関わりを理解することなどであり、情報発信による他人や社会への影響について考えさせる学習活動、ネットワーク上のルールやマナーを守ることの意味について考えさせる学習活動、情報には自他の権利があることを考えさせる学習活動、健康を害するような行動について考えさせる学習活動などを通して、情報モラルを確実に身に付けさせるようにする必要がある。

これらの内容を発達段階に応じて体系的に指導していく必要がある。

## 6 ねらいについて

### <教材について>

本単元では、③情報社会に参画する態度の観点を目標とし、情報モラル教育における③安全への知恵を扱う。コンピュータなどの情報機器の使用による健康との関わりを理解し、健康を害するような行動について考えることをねらいとしている。

「ネット依存」を教材として取り上げる理由については以下の2点である。

まず、現在の社会的な問題として存在している点である。厚生労働省やWHOの調査で、ゲームや電子メール、SNSなどに夢中になりすぎてやめられず、インターネットへの依存が強いとみられる若年層が、日本で80万人以上いると発表している。同時にネット依存をギャンブル依存などと同等に扱い、精神疾患として認知していく動きもある。もうすぐ中学生となる小学校高学年に対して、インターネット依存症に対する意識をもたせることで、依存症予防へとつなぐことができる。

次に、学校外での日常生活において、自律心の育成をはかることができる点である。学校生活においては、自分を律する機会をある程度は与えることができる。しかし、学校外では大人の目が行き届きにくいこともあり、様々なトラブルが起こりやすい。インターネットの利用は今の時代において必要不可欠なものであり、正しく使えることが大変重要である。ネット利用の怖い部分を児童に伝えることで、自分自身の生活を見直し、好きなことであっても自制しなければならないことを理解し、実践しようとする態度へとつなげていける教材である。

### <児童について>

本学年の児童は自分用の携帯電話やスマートフォンを持っている児童が多く、携帯電話やスマートフォンが児童にとって身近な情報機器であると言える。また、メールやSNS、LINEなどの無料通話アプリの利用もあり、児童同士のやりとりも一部で活発に行われている。実際に無料通話アプリを使う中で、友だちを傷つけるような言葉を使い、学校内でのコミュニケーションに支障をきたすことがあった。

また、ネットゲームやスマートフォンアプリのゲーム、家庭用ゲーム機でのネット対戦など、ネットに繋いでゲームをしている児童も多い。休み時間には、そのゲームの話をしており、ゲームの進み具合を競い合ったり、早くゲームがしたいと言ったり、ゲームにのめり込んでいる姿が想像できる児童も増えてきている。

さらに、IoT化が進み、テレビやスピーカーなど様々な家電がネットワークに繋がり、SNSと連動したサービスも増えている。これからの児童の生活は益々ネットと深い関わりがあるものになると考えられる。

これまでの学校での学習活動では、道徳の時間で情報の取り扱いや個人情報、著作権などについて考える活動を行っている。しかし、これらの学習活動はネットワークの中に潜む犯罪から自分を守るための安全指導であり、心身の健康について考えさせるものではなかった。

### <指導について>

指導にあたっては、ネット依存について自分自身と結びつけて考えさせることが重要である。児童それぞれのネット利用の状況から、無料通話アプリとゲームに関することを取り上げてネット依存の問題に迫る必要がある。

本時は、心身の健康を守るためにどうすればよいか考えさせることが中心となる。ただし、インターネットを利用することについて否定的に捉えるのではなく、有用性を理解した上で、いかに健康を守り安全に利用できるかを考えさせるように留意する。

まず、児童が身近に使っている情報機器の良さについて共通理解させる。児童がよく利用していると思われるパソコン(タブレット)、携帯電話(スマートフォン)、ゲーム機の3つに絞り、使用方法を考えさせる。それらが便利で必要不可欠であることを押さえる。

次に、ネット依存度をチェックするアンケートシートに記入させる。8項目のうち5項目以上があてはまるとネット依存の傾向が強いことを知らせ、ネット依存について解説する。この結果は、ネット依存傾向に対する一つの参考であり、病気と決まったわけではないことに留意させる。

続いて、ネット依存についての新聞記事を取り上げ、ネット依存になって苦しむ中高生とその家族の実態から問題点を考えさせて、グループで交流させる。ネット依存に陥るとゲーム・インターネット・SNSなどがやめられなくなり、生活が乱れてしまうこと、一度依存してしまうとやめにくいことを押さえる。

今回は、児童の実態により、無料通話アプリとゲームに関する記事を取り上げる。

最後に、ネット依存にならないためにはどうしたらよいかを、日常生活と関連させながら考えさせる。まず個人でワークシートに記入し、グループや全体交流へと広げていく。

この学習において、ネットを長時間利用している児童や、ネットを利用することで自分を見失っている児童が、ネット利用と心身の健康について振り返るとともに、これから広がっていくであろうネット利用に対して、本当に必要なネット利用とは何かを考えさせたい。

## 7 展 開

学習活動	主な発問と予想される反応	指導上の留意点
インターネットと健康について考えよう		
1 パソコン・携帯電話・ゲーム機を使ってできることを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ パソコン・携帯電話・ゲーム機を使って、どんなことができるだろう。</li> <li>・ 電話、メール</li> <li>・ 調べる、閲覧</li> <li>・ 対戦、買い物</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 情報メディアは便利で日常生活に必要な不可欠なものであることを押さえる。</li> </ul>
2 ネット依存度を調べ、ネット依存の症状を理解する。  ネット依存とは何かについて知る。 「ネットを使いすぎることによって、日常生活や社会生活に障害が起きること」	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ワークシートの「8つの質問」に答え、依存度をチェックしてみよう。</li> <li>○ たくさん○がついた人は気をつけた方がいいですね。自分自身の生活を振り返り、ネット依存について考えているつぶやきがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ネットという言葉や、自分がよく利用する情報メディアに置き換えて答えさせる。</li> <li>○ 依存度チェックの結果は、ネット依存傾向に対する一つの参考であり、病気と決まったわけではないことをおさえる。</li> </ul>
3 ネット依存について考える。2つの新聞記事を読み、問題点を考え、グループで交流し発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ネットを使用する時間が問題だと思う。</li> <li>中学生にスマホは必要なのかな？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 記事を指導者が解説しながら読みあげる。</li> <li>○ 問題だと思う部分に下線を引かせ、思ったことを書かせた後、グループで交流させる。</li> </ul>
4 どうすればネット依存にならないのかを考え、ワークシートに記入し、グループで交流し、発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ネットよりも楽しいことが他にもあるはず。</li> <li>時間を守って使用するべきだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の生活をイメージさせながら考えさせる。</li> <li>○ あまり使用しない児童については記事から考えさせる。</li> </ul>
5 学習の振り返りをワークシートに書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ルールを作って守ろうと思った。</li> <li>誰もがネット依存になるかもしれないと思って、自覚をもちたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ネット依存について、わかったことや感想を書かせる。</li> <li>○ ネット依存にならないための行動を考えることができる。(思考)</li> </ul>

## 8つの質問 「young8」

1 ネットに夢中とを感じるか	
2 ネットを使う時間を長くしなければならないか	
3 ネットをやめようとして、やめられないことはあるか	
4 ネットを制限してイライラしたことがあるか	
5 決めた時間より長時間ネットを使うか	
6 ネットのために人間関係や学校の活動を台無しにしたことがあるか	
7 ネットへの熱中を隠すため周囲にウソをついたことがあるか	
8 不安や落ち込みから逃れるためにネットを使うか	

ネット依存とは

『ネットを使いすぎることによって、日常生活や社会生活に支障をきたすこと』

### 中日新聞

「スマホを持たせたのは間違いだったのでは...」。東京都練馬区の母親（45）は、中学二年の長男（13）の使い方に、頭を悩ませる。部活の連絡は、複数の会員が同時にメールできるスマートフォンの無料メールアプリ「LINE（ライン）」経由。「ラインにつながらないと明日の集合時間も分からない」と言われ、昨夏に買い与えた。夏休みになると、徹夜で友人と「ライン」漬け。「寝る時間を割いてまで友達とつながらなくていい」と、何度も没収した。

家では居間からスマホを持ち出さないルール。だがラインのグループは五つあり、ほぼ一分ごとに着信音が鳴り、息子は「早く返信しなきゃ」。母親は「家族の時間を侵食されている」と嘆く。

### 朝日新聞

高1の時に自分用のパソコンを買って以来、1日12～14時間、オンラインゲームに没頭するようになった。熱心だった部活もやめ、学校に行かなくなった。本人はネット依存の自覚がなく、病院にも行きたがらなかった。本人が来院したのは、母親が最初に訪れた約2か月後だった。

来院後は、日記をつけて、どれぐらいネットをしているか、を自覚してもらった。「今よりもネットを1時間減らして、その時間を家族で過ごす」などの「宿題」を出した。ネットの時間を少しずつ減らすよう求め、半年後には、1日2時間以下に抑えられるようになった。

治療が終わった後、本人は「ネットで、人生を無駄にした」と話したという。

### 思ったこと

### どうしたらネット依存にならないか？

### ふり返り

---

---

---

## 9 振り返り・感想

日本には思ったよりもネット依存の人が多かったです。少しでも間違えて使うと怖いなと思いました。これからは、ゲームをする時間や YouTube を視聴する時間を少し減らす方がいいと思いました。

ゲームやインターネットを使う時間を減らしたいと思った。視力が悪くなるだけでなく、もっといろんなことに影響が出てしまうことがわかった。今は親が管理してくれているけど、大人になったら自分で管理しないとイケない。自覚をもって、時間を決めたいと思う。

ネット依存は自覚がないのが怖いと思った。何度も没収したらストレスがたまり、逆効果になると思った。日記をつけて自覚させるのは良い案だと思う。何事も節度が大切だと思った。私は、自分に必要なこと以外にはあまりネットを使わないように気をつけようと思う。ネットの他にも自分の好きなことを見つけて、時間を管理したいと思った。

ネット依存は、自分自身が気づかないから怖いと思った。ネットより楽しいこと(スポーツなど)を見つけることが大切だと思った。大人になると、お母さんやお父さんは制限をかけなくなってくる。今のうちに、自分で責任をもって、健康な生活を送れるようにしたいと思った。

インターネットを使うことは悪いことではないが、ネットのしすぎで学校や部活もままならないほど熱中するのは、ただの時間の無駄だと思った。ネット依存の自覚がないことも危ないと思う。ネット依存にならないために、「家族の前だけで使う」「時間制限をつける」などの対策が必要だと思った。授業を受けて、自分も依存しているかもしれないと思うこともあったので、自分自身で少し制限をかけていきたいと思った。

ネット依存の無自覚は怖いと思った。普段なら「別にいいか」と思えることでも、依存に陥ると判断できなくなることがわかった。最初にルールを作る(ゲームの時間制限や携帯で連絡をとる友だちを限定するなど)ことが大切だと思った。本当に必要かを親も一緒に判断して使うべきだと思った。自分もこのようなインターネット依存にならないように、今の自分はどのような状態なのか自覚することが大事だと思った。

インターネットは自分で時間を決めて、正しく使うことが大事なのだと気づいた。日常生活に問題が起こらないようにコントロールすることが大事だと思った。自分をなくさないように、ネット以外のことにも目を向けるべきだと思った。